

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 9 月 1 日現在

機関番号：34315

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2014～2016

課題番号：26370255

研究課題名（和文）近世文化形成における歌舞伎興行と出版活動の連動についての基礎研究

研究課題名（英文）Basic research on the linkage between kabuki entertainment and publication activities in the early modern culture formation

研究代表者

倉橋 正恵（Kurahashi, Masae）

立命館大学・文学部・非常勤講師

研究者番号：90425017

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,100,000円

研究成果の概要（和文）：歌舞伎劇場運営についての研究会を平成26年度より発足させ、幕末期の歌舞伎興行の実態を探り、その成果として芸能史研究会において研究発表を行った。歌舞伎興行と出版物との関係については、歌舞伎作者とメディアについての研究論文や、役者絵の第一人者であった歌川国貞と劇界との関係についての研究論文等を著した。歌舞伎興行記録である年代記については、石塚豊芥子が著した歌舞伎年代記について論文としてまとめるだけでなく、近世期に編まれた複数の歌舞伎年代記を収めた資料集を刊行することができた。この他にも、芝居番付のデジタルアーカイブ・データベース化、配役による歌舞伎年表のデータベースを作成し一般の利用を可能とした。

研究成果の概要（英文）：A study group was established in 2014 to examine the actual conditions of kabuki theatre management during the Edo period. As a result of the findings of this research, academic papers were presented at the Geinoshi Kenkyuukai. Enquiries into the relationship between kabuki show business and publications have resulted in one research paper explores the connection between kabuki dramatists and the media, and another paper investigates the kabuki actor print artist Utagawa Kunisada. Research results have led to the publication of an academic paper about the Kabuki nendaiki during the Edo period. Furthermore, data contains several kabuki chronicles, which were recorded in the early modern period, has been collated and published in one volume. In addition to this, the research group I participated in has produced a digital archive and database of banzuke and a chronological kabuki performance database which is easy to navigate and can be searched by cast member for each performance.

研究分野：芸能文化史

キーワード：歌舞伎 出版 興行 浮世絵 番付 役者 都市文化 芸能情報

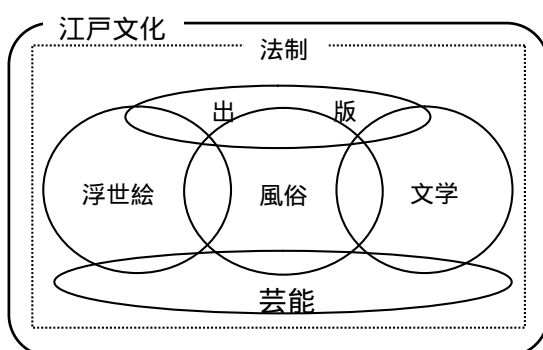
1. 研究開始当初の背景

研究代表者はこれまで主に演劇史の方面から江戸文化研究に取り組んがらも、一貫して分野間の拘束に縛られることなく演劇(特に歌舞伎)から派生する諸文化事象、具体的には浮世絵や一枚摺、また文学作品といった出版文化にも注目してきた。具体的には、歌舞伎芝居の場面や役者の日常を描く役者絵を中心とする浮世絵版画の調査及び目録化や、浮世絵版画を企画・出版・販売する浮世絵版元の目録化、役者の格付けを表す見立番付に代表されるような芸能関係の一枚摺出版物の調査と目録化を行ってきた。特に浮世絵版画に関しては、浮世絵師の中でも最も作品数が多く、かつ歌舞伎役者を描いた役者絵の作品数が突出している初代歌川国貞に注目し、国貞作品の目録化及び歌舞伎興行と浮世絵出版活動の関係性の解明に精励してきた。また研究代表者は2005年度から2009年度にかけて、大規模浮世絵版画所蔵機関であるアメリカ合衆国ボストン美術館での所蔵調査を継続的に行ってきた。

研究成果は研究論文によって国外研究者にも提供されると同時に、「市川海老蔵と幕末歌舞伎展」(2004年、於立命館大学)、「見る・知る・読む 歌舞伎と劇場展」(2010年、於立命館大学)といった展覧会だけでなく、口頭発表の「ボストン美術館所蔵歌川国貞浮世絵版画コレクション」(2009年、於立命館大学)や「幕末江戸歌舞伎の興行形態と劇場運営」(2005年、於早稲田大学)によって国内にも研究成果を発信してきた。

こうした近世後期芸能関係出版物の基礎調査を行う中で、浮世絵や文芸作品といった文化表現として具象化するものには、法制という枠組みの中において歌舞伎興行を主とする芸能文化が根底にあり、多様な文化事象が複雑に絡み合いながらも、その多くが芸能文化の多様性の一端を示すものであるということが判明した〔図1〕。したがって、総合的な江戸文化研究を行うためには、歌舞伎興行そのものについての研究は言うまでもないことだが、文学・絵画・出版・歴史といった各分野の基礎研究を行い、それらの成果を利用しながら芸能文化としての広がりや関連性を理解することが必要となるのである。

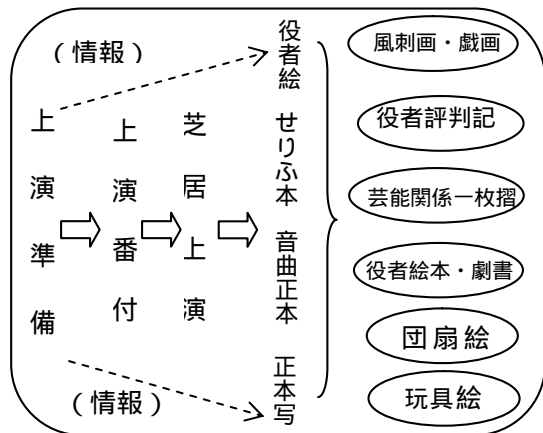
図1



2. 研究の目的

本研究では前記1. 研究開始当初の背景に基づき、出版・芸能文化の根底となる歌舞伎興行自体の実態を解明することを第一の目的とした。また、出版文化が極めて発達した幕末期においては、芝居が上演されると同時に劇場側が出す各種の上演番付とはまた別に、役者絵やせりふ本、芝居中に行われる舞踊場面の詞章を記した音曲正本、芝居の脚色を小説化した正本写など芝居内容に関連する様々な出版物が商品として販売されていた。こうした芝居関連の出版物が世に広まって、世間の評判となり、それが役者評判記や芸能関係の一枚摺、役者の評判を絵画的に表現した風刺画や、役者絵本、劇書、団扇絵、玩具絵といった新たな出版物へと繋がっていくという連動的な動きが見て取れるのである。〔図2〕。

図2 芸能関係出版物刊行の流れ



つまり、江戸文化の特色の一つとされる出版という文化事象は、歌舞伎芝居の上演と密接に結びつきながら芸能文化、さらには江戸文化形成の一端を支えていたのである。

ゆえに第二の目的は、第一で明らかとなった歌舞伎の上演情報を基盤としながら、美術史や文学史、風俗史、社会史といった多角的視点から歌舞伎の上演が様々な出版物に及ぼした影響について研究を行い、芸能と出版文化の密接な交流の実体を明らかにすることであった。

こうした第一・第二の目的を達成することにより、当時の演劇界を取り巻く環境や同時代性を含めて作者、絵師、版元、作品の流通や芸能以外の分野への影響といった、ジャンルを超えたアプローチによって、結果的に近世文化全体を考察することに繋がるのである。

3. 研究の方法

本研究では、前記の第一及び第二の目的を達成するために、「A、歌舞伎興行研究のための基盤形成及び、近世期の歌舞伎劇場運営研究」、「B、歌舞伎の上演が歌舞伎関係出版

物に及ぼした影響と関係性についての検討」の二方向からの考察を行った。

まず、「A、歌舞伎興行研究のための基盤形成及び、近世期の歌舞伎劇場運営研究」については、幕末期の江戸歌舞伎興行についての研究会を発足させて、実際に明治期まで興行を行っていた歌舞伎の劇場の中で最も歴史がある中村座の記録『中村座日記』の記事を丹念に追っていった。『中村座日記』は劇場全体を取り仕切っていた「仕切場」で毎日付けられていた公的な記録であり、現在は近世後期から幕末にかけての11年間分の存在が確認されている。この11年間分の中村座日記は、現在の所蔵者である早稲田大学演劇博物館によって、既にデジタル画像が公開されている。研究代表者はそのデジタル画像をもとにして、既に第一次翻刻まで完成させていた。そのため、研究会において定期的に翻刻作業を進めながら複数の研究者のチェックを受けた上での第二次翻刻を行い、将来的に計画している翻刻資料集刊行に向けて、さらなる正確な翻刻の原稿化を目指した。

これと同時に、近世期における歌舞伎興行と劇場運営方法がいかに行われていたのかを探るため、『中村座日記』に記されている記事をもとにして、他の劇場周辺史料と比較しながら劇場側の実際の動き方、さらに劇場の動向が演劇出版物に与えた影響について、研究会で事例報告を行いながら検討していった。

「B、歌舞伎の上演が歌舞伎関係出版物に及ぼした影響と関係性についての検討」については、国内外の歌舞伎関係出版物の調査研究を中心に行い、資料のジャンル別にデータベースを構築し、本研究の資料整備を拡充していった。具体的には、イギリスの大英博物館所蔵の上方芝居の絵尽しコレクションや、アメリカ合衆国のボストン美術館所蔵絵本番付コレクションといった上演番付の調査研究、さらにハーバード大学美術館所蔵役者絵コレクションの調査研究である。特にボストン美術館の絵本番付コレクションは、その大部分が明治期の著名な歌舞伎研究家であった関根只誠旧蔵のものであることが判明しているものの、その詳細な調査が行われていなかった。そこで、まずは同コレクションの概要を把握することが必要であった。

国内の上演資料においては、松竹大谷図書館所蔵の芝居番付、大阪府立中之島図書館所蔵の上方芝居の番付や絵尽しのデジタルアーカイブ化と目録化、データベース化を行った。こうした調査活動により、上演出版物と周辺の歌舞伎関係出版物との関連性を考察する上で最も基礎となる上演に即した番付をはじめとする資料群を整理・目録化することを目指した。というのも、浮世絵・文学・一枚摺といった出版物がどのようにして歌舞伎と直接的・間接的に交流を持っていたかを考察するためには、歌舞伎における上演情報といった基礎的な情報源自体を確定させ

ておく必要があったからである。

さらに本研究では、近世期に作成された歌舞伎年表である「歌舞伎年代記」というジャンルの上演記録資料にも注目していった。これは、近世期における歌舞伎上演情報の捉え方や後世の劇書等に与えた影響を考察すると共に、近世期の人々の芸能情報収集と情報選択の実態を把握することが必要であったからである。

4. 研究成果

前記3. 研究方法で記したA及びBの研究成果は、以下のようなものである。

A、歌舞伎興行研究のための基盤形成及び、近世期の歌舞伎劇場運営研究

2014年度より歌舞伎劇場運営についての研究会を発足させて、研究期間内に計8回の研究会を開催した(2014年度1回、2015年度4回、2016年度3回、於青山学院大学・早稲田大学)。研究会では、『中村座日記』を基本資料としながら、江戸と上方と比較しつつ、幕末期から明治初期における歌舞伎興行の実態を探った。この研究成果として、2016年9月9日の藝能史研究会9月例会において、「『中村座日記』から見る幕末江戸歌舞伎興行と劇場運営」として単独の口頭発表を行った。また、近世期劇場運営史料の資料集刊行に向けて、『中村座日記』の翻刻精度を高めるべく第二次翻刻作業に着手した。

B、歌舞伎の上演が歌舞伎関係出版物に及ぼした影響と関係性についての検討

上演資料の調査・整理・目録化・データベース化について、国外は大英博物館所蔵絵尽しコレクションについての解題と目録を、「大英博物館所蔵絵尽しコレクションについて」(『アート・リサーチ』, 15号, 2015年, pp. 61-71)で論文化することができた。また、ボストン美術館所蔵絵本番付コレクションとハーバード大学美術館所蔵役者絵コレクションについては、ボストン美術館は2014年と2016年に調査し、ハーバード大学美術館は2016年に調査研究を行った。その結果、ボストン美術館では以前の調査で判明していた絵本番付600点の他にも200点程の絵本番付が所蔵されていることが明らかになり、ハーバード大学美術館では同館所蔵役者絵約200点についても調査研究を行うことができた。

国内では、立命館大学アート・リサーチセンターが進めるデジタルアーカイブプロジェクトに参加し、近世から近代にかけての歌舞伎番付や見立番付を所蔵する松竹大谷図書館所蔵の番付コレクション(約5900点)及び大阪府立中之島図書館が所蔵する上方芝居の番付コレクション(約700点)の目録・データベース化を行った。大英博物館、松竹大谷図書館、大阪府立中之島図書館の各コレ

クッションについては、それぞれのデータベースによって研究成果である目録がデジタル画像と共に公開され、一般の閲覧も可能となっている。

また、近世後期から幕末期の江戸において役者絵の第一人者であった歌川国貞という浮世絵師の晩年の作品に注目し、国貞と演劇界との関係についての学会発表「国貞の役者選択について - 『当盛六花撰』『当盛十花撰』の場合 - 」(国際浮世絵学会, 2014年11月22日, 於学習院大学)を行い、この発表をもとにして研究論文「国貞の役者選択について - 『当盛六花撰』『当盛十花撰』の場合」(『浮世絵芸術』, 170号, 2015年, pp. 5-22)をまとめた。さらに外国人研究者 Ellis Tinios 氏による歌川国貞についての英文論文「Greater than Utamaro: the Fame of Utagawa Kunisada (歌川国貞の評判 - 歌麿を超えた浮世絵師)」(『浮世絵芸術』, 171号, 2016年, (和文) pp.30-39, (英文) pp.95-113)を翻訳した。

役者の噂や評判を絵画化した役者評判絵については、研究論文「幕末風刺画の中の役者評判絵」(『風俗絵画の文化学 - 瞬時をうつすフィロソフィー - 』, 思文閣出版, 2014年, 全419頁(pp.109-134))によって、役者評判絵を幕末期の文人や通人達による役者批評の風潮の一端を表した文化事象と捉え、同時代の風刺画流行の中における位置付けを試みた。

歌舞伎作者と幕末メディアの関連については、研究論文「メディアと黙阿弥 - 幕末期」(『河竹黙阿弥の世界』, 笠間書院, 2017年, 印刷中)をまとめることができた。

近世期に作成された歌舞伎年代記については、研究論文「石塚豊芥子『花江都歌舞伎年代記続編』 - 近世後期における歌舞伎興行記録の一樣相 - 」(『論究日本文学』, 100号, 2014年, pp. 111-126)としてまとめるだけでなく、『花江都歌舞伎年代記続編』に記載されている配役情報からデータベースを作成し、それを公開することができた(2017年6月現在、データベースは調整のためパスワード付となっているが、近日中にパスワードを解除して一般に公開する予定である)。さらに、三種類の歌舞伎年代記を収録した『未刊江戸歌舞伎年代記集成』(新典社, 2017年, 全966頁(pp. 850-896, pp.921-931))を共同執筆し、資料集として刊行した。

以上のような研究成果により、従来の研究では捉えることのできなかつた歌舞伎を中心とする芸能情報と周辺の文化事象との繋がりについて、複合的な視点で今後考察していくための重要な基礎を築くことができたのである。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者に

は下線)

〔雑誌論文〕(計 4 件)

Ellis Tinios, 翻訳 倉橋正恵, 「Greater than Utamaro: the Fame of Utagawa Kunisada (歌川国貞の評判 - 歌麿を超えた浮世絵師)」, 『浮世絵芸術』, 171号, 査読無, 2016年, (和文) pp.30-39, (英文) pp.95-113

倉橋正恵, 「国貞の役者選択について - 『当盛六花撰』『当盛十花撰』の場合」, 『浮世絵芸術』, 査読無, 170号, 2015年, pp. 5-22

倉橋正恵, 「大英博物館所蔵絵尽しコレクションについて」, 『アート・リサーチ』, 査読有, 15号, 2015年, pp. 61-71

倉橋正恵, 「石塚豊芥子『花江都歌舞伎年代記続編』 - 近世後期における歌舞伎興行記録の一樣相 - 」, 『論究日本文学』, 査読無, 100号, 2014年, pp. 111-126

〔学会発表〕(計 2 件)

倉橋正恵, 「『中村座日記』から見る幕末江戸歌舞伎興行と劇場運営」, 藝能史研究会9月例会, 2016年9月9日, 於キャンパスプラザ京都(京都府・京都市)

倉橋正恵, 「国貞の役者選択について - 『当盛六花撰』『当盛十花撰』の場合 - 」, 国際浮世絵学会, 2014年11月22日, 於学習院大学(東京都・豊島区)

〔図書〕(計 3 件)

倉橋正恵・光延真哉・埋忠美沙・吉田弥生・日置貴之・寺田詩麻・岡田万里子・岩井眞實・佐藤かつら・多田蔵人・児玉竜一, 『河竹黙阿弥の世界』, 笠間書院, 2017年, 印刷中(「メディアと黙阿弥 - 幕末期」の執筆担当)

倉橋正恵・桑原博行・小池章太郎・齊藤千恵・光延真哉, 『未刊江戸歌舞伎年代記集成』, 新典社, 2017年, 全966頁(pp. 850-896, pp.921-931)

出光佐千子・宮下規久郎・呉孟晋・中野慎之・倉橋正恵・中野志穂・宮崎もも・館野まりみ・松本郁代・古住恭子・松本直子・森道彦・米倉迪夫・下坂守, 『風俗絵画の文化学 - 瞬時をうつすフィロソフィー - 』, 思文閣出版, 2014年, 全419頁(pp.109-134)

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況（計 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

The British Museum, Research,
collection search
http://www.britishmuseum.org/research/collection_online/search.aspx

大阪府立中之島図書館芝居番付閲覧システム
http://www.dh-jac.net/db1/ban/search_ONL.php

松竹大谷図書館所蔵・芝居番付検索閲覧システム
http://www.dh-jac.net/db1/ban/search_shochiku.php

続歌舞伎年代記配役閲覧データベース
<http://www.dh-jac.net/db/haiyaku/search.php>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

倉橋 正恵 (KURAHASHI, Masae)
立命館大学・文学部・非常勤講師
研究者番号：90425017

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

()

研究者番号：

(4) 研究協力者

佐藤 かつら (SATO, Katsura)
青山学院大学・文学部・教授

日置 貴之 (HIOKI, Takayuki)
白百合女子大学・文学部・准教授
埋忠 美沙 (UMETADA, Misa)
早稲田大学・文学学術院・助教
寺田 詩麻 (TERADA, Shima)
早稲田大学演劇博物館・招聘研究員
金子 健 (KANEKO, Takeshi)
文化庁・文化財調査官
青山 いずみ (AOYAMA, Izumi)
立命館大学・大学院・文学研究科・研修生